

会 議 録

会 議 名	令和5年度第5回野田市老人福祉計画及び介護保険事業計画推進等委員会
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	<p>1 第9期野田市老人福祉計画及び介護保険事業計画（野田市シルバープラン）の策定について（公開）</p> <p>(1) パブリック・コメント手続の結果について</p> <p>(2) 介護保険料の設定について</p> <p>2 野田市虐待防止条例の制定について（報告）（公開）</p>
日 時	令和6年1月24日（水） 午後1時30分から午後2時30分まで
場 所	市役所高層棟8階 大会議室
出席者氏名	<p>副会長 川島 信良</p> <p>委 員 中林 隆 古賀 晴美 豊田 義雄</p> <p> 寺嶋 雪子 大用 菜穂子 遠山 康雄</p> <p> 中村 綾子 白島 智子 高森 輝行</p> <p> 山崎 美紀 山名 裕里 江幡 吉生</p> <p> 須賀田 貞彦 中山 道子 香山 啓</p> <p> 澤田 健次郎 篠田 恵美子 波戸 夕カ子</p> <p> 森田 邦子 三輪 秀民 高橋 武宜</p> <p> 鏡 浩美 内藤 公子</p> <p>事務局</p> <p>今村 繁 （副市長）</p> <p>小林 智彦（福祉部長）</p> <p>山口 忠司（高齢者支援課長）</p> <p>吉田 陽子（高齢者支援課長補佐兼介護認定係長）</p> <p>鈴木 智子（高齢者支援課高齢者支援係長）</p>

兼介護認定係長	<p>会議録作成のため録音機を使用することを報告するとともに、発言について説明した。</p>
川島副会長	<p>議題1第9期野田市老人福祉計画及び介護保険事業計画（野田市シルバープラン）の策定について事務局から説明を受けた。 質問等を委員に問うた。</p>
白島委員	<p>第6章の表に、令和22年度が一番右側にあり比較しているが、令和22年度を比較した理由を教えてください。</p>
高齢者支援課長	<p>令和22年は、85歳以上人口が急増し、医療・介護双方のニーズを有する高齢者などが増加すると言われているため、今回の計画に記載をさせていただいている。</p>
白島委員	<p>それでは、これは人口推移も含めて精査された結果という認識でよろしいのか。</p>
高齢者支援課長	<p>これは現在の人口推計等を基に、それを22年度まで見込んだ場合、例えば要介護者数はこの程度になるので、実際の給付はこれぐらいが見込まれるというように設定している。</p>
白島委員	<p>この介護保険料を決めるに当たって、現在、南第2包括がない状態だが、包括は全部そろった上での予算組み、保険料の予定ということでもいいか。 本来は南部にもう一つなければいけない状態であり、</p>

<p>高齢者支援課長</p>	<p>設置されたもののすぐに廃止されてしまったという現状だと思うが、南第2包括があった上での介護保険料、この第9期の計画ということではないか。</p>
<p>白島委員</p>	<p>南第2包括に関しては、計画上は令和7年度から新たに設置するという形での計画値となっている。</p>
<p>高齢者支援課長</p>	<p>ということは、そのお金が入っているということか。計算に入っているのか、入っていないのかを教えてください。</p>
<p>白島委員</p>	<p>ある前提で計画は策定している。</p>
<p>高齢者支援課長</p>	<p>その南第2包括について、市では今どのように進んでいるのか。</p>
<p>白島委員</p>	<p>市としては、現在、まだここに委託するところまでは決定していない状況である。市としては、できれば圏域の地元に事務所を設置したいと考えているので、そのような方向で話を進められればと考えている。</p> <p>これはお願いにもなると思うが、ようやく南第2包括がそろい、野田市の行政の中に基幹型包括ができて、昨年度は特に、在宅医療・介護ということで、ITを入れようということや、その連携をどうしようかというところを、基幹型包括が中心になって非常に良い形で進んできている。やはり基幹型包括が基幹型として地域のいろいろな課題に対して進んでいけるような状</p>

三輪委員	<p>態を作るためにも、やはり南第2包括を早く調整して設置する必要があると思うので、是非、南第2包括を早く決めていただければと思うのでお願いします。</p> <p>三点ほど質問がある。</p> <p>まず一点目、15ページの、介護老人福祉施設、いわゆる特別養護老人ホームや、介護老人保健施設は、第9期では整備計画がないとなっている。私もこの委員会で、待機者はどれぐらいいるのかという質問をさせていただいたが、第9期で整備計画がないということは、待機者がいたとしても従来の施設で対応できるというようなことなのか、その辺をお答えいただければと思う。</p> <p>次に、二点目、予定保険料収納率が99.55%と24ページにあり、ほぼ100%に近いが、それでも収納できないというその理由は何かということと、この設定であるが、第8期では99.35%であり、この数字の根拠についてお伺いしたい。</p> <p>次に、三点目、25ページの算定基準月額だが、保険料が妥当なものかという問題については、基準月額で、例えば第8期に比べて第9期がどうなっているかということや、あるいは他の指標と比較して第8期の基準額が妥当だったのかという問題も含めてお伺いしたいと思う。第9期では、300円増の5,490円ということになっているので、その5,190円という第8期の数字が、どういう意味を持っていたのかということをお私の方で調べてみたのだが、このときの全国平均が6,014円で、野田市はこの金額より824円も低く抑えられている。それでは千葉県平均ではどれぐらいだったかと</p>
------	--

<p>高齢者支援課長</p>	<p> いうと、5,385円で、その金額より野田市は195円低くなっている。参考までに、私が住んでいる東京都の西東京市、東京都の北西部にある人口が20万6,000人ぐらいで野田市より約5万人多いところだが、西東京市は6,058円であった。全国平均より44円高く、野田市よりも900円近く高くなっている。基準月額というのはそれぞれの市町村の人口構成やいろいろな事情があると思うが、野田市は全国平均よりもかなり低い水準であったということができると思う。私はその要因が何なのかということを考えてみたのだが、野田市の高齢化率は、2020年当時結構高く30.7%、それにも関わらず全国平均よりも低く抑えられているのは、介護予防施策というものがかなり功を奏しているのも一因ではないかというように思っているのだけれども、何かその他の要因として考えられるのか、千葉県全体が全国平均よりも低いということもあるけれども、高齢化率がそこそこ高いのに保険料が低い水準であると、先ほど私が申し上げた以外に何かその他の要因というのがあるのかどうかということをお尋ねしたい。 </p> <p> 以上三点、よろしく願います。 </p> <p> 一点目の施設整備の関係になるが、例えば特別養護老人ホームについては、現在、在宅で生活され、かつ、要介護3以上の緊急性の高い待機者の方を推計すると、令和5年度は193人となっている。これを令和8年度の要介護3以上の推計数で換算すると216人となるが、待機者の中には、予約的な意味合いで申し込んでいる方もいるため、待機者アンケートにおいて「ただちに入所できないと非常に困る」、「なるべく早く入所で </p>
----------------	---

<p>内藤委員</p>	<p>きるほうが良い」と、早期の入所を希望した割合が待機者の57%となっていた。これを踏まえ、216人の57%に当たる123人が緊急性の高い待機者であると考えている。現状では年間230人程度の入所ができていることから、この123人は長期間の待機なしに入所できると考えられるため、原則として、第9期中に新規整備は行わないこととしたところである。</p> <p>二点目の予定保険料収納率の関係だが、今回、予定保険料収納率を99.55%と設定した。これは、ここ数年の実際の収納率を見ると、令和2年度が99.57%、令和3年度が99.66%、令和4年度が99.68%となっている。そういった状況を踏まえ、今回の予定保険料収納率は99.55%とした。</p> <p>三点目の保険料の基準月額についてだが、野田市では第8期においては、介護保険給付費準備基金の残額を全額投入することにより、保険料を第7期から第8期に据え置くという形をとった。そういった政策的な部分もあり、第8期の保険料が野田市の場合は低く抑えられたというように考えている。また、他の要因ということなのだが、委員の方で介護予防事業が功を奏しているのではないかという指摘があったが、私どもも、介護予防の方に力を入れているので、やはりそういったところは給付を抑える一つの要因となっているというように考えている。なお、今回、給付費の推計をするに当たって、これまでの決算等の精査をした。それにより、今回、第9期の基準月額も抑えることができたのではないかというように考えている。</p> <p>先ほど、三輪委員から新たな施設整備はないという</p>
-------------	---

	<p>ことで話があったけれども、在宅サービス目標量を見ても、令和6年度から徐々に右肩上がりというところなのだが、在宅サービスに関して、野田市ではサービス量の増加に伴い、何か計画などがあるようであれば教えていただきたい。</p>
<p>高齢者支援課長</p>	<p>整備目標量については、地域密着型サービス整備目標量をこちらに示している。居宅の介護サービスは、県の指定ということもあるので、そういったところで今後整備がされるのかなというように考えている。</p>
<p>内藤委員</p>	<p>在宅サービスを支えている訪問介護などは、働く方も少なく、現状でも足りていないというのが正直なところなのだが、今後、人口も減っていく中で、介護人材をどのように確保していくのかというところを検討していただきたいと思う。</p>
<p>白島委員</p>	<p>付け加えさせていただく。</p> <p>サービス事業所もそうなのだが、居宅介護支援事業所、要するにケアマネジャーが不足している。特に、介護予防支援が包括ではやりきれなくて、居宅介護支援事業所でもなかなか受けてもらえない状況が包括にある。うちの事業所も含めて、ケアマネジャーは募集しても来ない。事業者配属されている事業所のケアマネジャーは動かない。これは全国的にどこもそうである。そのため野田市だけなのではないのだが、サービス事業所を含めて、内藤委員が話した介護人材に対して、一つは、就職相談会を野田市で年に1回行っている。ただこれも、私も委員だが、毎年繰り返して、</p>

<p>高齢者支援課長</p>	<p>それで人材を野田市の中で増やしていこうということで、毎年周知していく意味合いも含めてPRをしてというようには行っているのだが、やはりそれでも増えていかない状況の中で、内藤委員もそういう意味で話したのではないかと思うが、今回のこの予算の中で、野田市として何か介護人材を増やすために、お金を加えて何か手を入れることはあるかというような意味だと思うのだが。</p> <p>現在、例えばこういった制度や、こういった方法というところまでは申し上げられる状況ではない。ただ、今話があったが、介護職員合同就職相談会等の実施をしている。また、これまでも介護の資格の取得をする方に対して、研修費用の一部助成等も行っている。そのため、そういった制度、今までやっている制度のPRをより一層進めるといことと、私どもも介護従事者が不足しているということは重々承知しているので、国や県の動向、他市の動向等を注視しながら、市としても新たに何ができるのかというところを今後検討していかなければならないと考えている。</p>
<p>副市長</p>	<p>お金を入れてというような話があったが、今白島委員が言ったように全国的な問題であり、お金での解決ということは野田市の財政からいうと不可能である。保育士も、東京などはすごいお金を払って保育士を確保しているが、野田市がそのお金を払ってということはありません。介護人材についても、お金を使った競争ということになると、野田市は非常に不利な状況になるのは間違いないので、基本的に</p>

川島副会長	<p>は国がきちんとやってもらわないとこの問題は解決しないと思っている。野田市では、そういうお金よりは、ふだんの中で、就職相談会など余りお金をかけない中で何ができるかということも今後考えていくことと、市と事業者の方との連携が野田市の一番の強みにしていければいいのかなというように思っている。</p> <p>他に質問等を委員に問うた。</p> <p>質問等なし。</p> <p>議題1について、了承としてよいか。</p> <p><異議なしの声あり></p>
川島副会長	<p>議題1は説明のとおり了承した。</p>
川島副会長	<p>議題2野田市虐待防止条例の制定について（報告）事務局から報告を受けた。</p> <p>質問等を委員に問うた。</p>
山名委員	<p>要望なのだが、30条に「必要な広報その他の啓発活動」の実施という条文が入っているが、29ページを見ると、児童虐待には、「児童虐待防止推進月間を設け」というように明確に書かれており、高齢者虐待にはその文が入っていないので、できれば高齢者虐待防止推進月間みたいなものを設けていただき、必要な広報、啓発等をしていただきたいと思っている。なぜかというと、虐待の対応をする中で、養護者の方は、これが虐待に当たると思わなかったということがとても多く、日常的にたたいたり蹴ったりなどをすることが普通だ</p>

<p>高齢者支援課長</p>	<p>と思っていたり、高齢者の年金を自分たちの遊興費に使ったりして施設の費用が払えなくなったりというケースも、それが虐待とは思っていなかったり、そういうことがあるので、それを例えばポスターや、市報の一面に載せるなどして啓発していただけると防止ができる。事が起こってからというのではなく、その前に摘みたいという思いが包括としてはとてもあるので、検討していただきたいと思う。</p> <p>月間については、そういった月間を定めるということは即答できないところではあるが、ただ、確かに事前の広報、周知等は必要だということは、私どもも認識している。そのため、今も話があったが、今後も例えば市報などで高齢者虐待について案内をしたり、あるいは、直接高齢者虐待とは関係ないようであっても、例えば認知症の関係が虐待につながるという事例も多くなっているため、認知症の研修会等も開催しているので、そういったところでも、併せて広報をすることができればというように考えている。</p>
<p>三輪委員</p>	<p>これを見ていて、アウトリーチや、レスパイトケアを、かなり取り込んで作られているということで、私の方は、マスコミ等でいろいろな虐待事案があって、悲劇的なことがあるといった場合、いろいろ聞いてみると、関係者が加害者に対して対応するときに、後ろに引いているようなイメージがあるので、どうして踏み込めないのかといったところがあると思う。個別にはいろいろな事情があると思うのだが、加害している方の人というのは、身内だけではなくて、場合によっ</p>

川島副会長	<p>ては、支援者に対してもかなり害を加えることもある。それは言葉の問題であったり、行動の問題であったりということなので、支援者を単独で対応するのではなくて、必ず、複数だとか、あるいは場合によっては、チームを組んで、この中でも書かれているのだけれども、特に必要に応じて警察官に同行してもらうなど、そういったことで前向きにアウトリーチというか、むしろ受け身で待っているのではなくて、こちらから積極的に行くという感じができれば、悲劇的な事案も減少するのではないかなと思うので、この趣旨を是非とも関係者に徹底していただき、一人一人の職員や関係者に理解していただくということをお願いしたいと思う。</p> <p>他に質問等を委員に問うた。</p> <p>質問等なし。</p> <p>午後 2 時30分閉会を宣言</p>
-------	---